

式辞

うららかな春の日に、ここ京都市立七条中学校で、第67回卒業証書授与式が挙行できることを大変うれしく思います。3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

みなさんとの一番の思い出は、修学旅行です。台風2号と共に京都駅を出発し、熱海駅を降りる頃には大雨になり、予定していた伊豆高原自然体験は中止になるというスタートでしたが、代わりのプログラムの陶器づくりに気持ちを切り替えて取り組み、個性的な作品が出来上がりました。この時、3年生は上手に気持ちが切り替えられる学年だと思いました。続いて、学年レクリエーションのために訪れた伊豆シャボテン公園ではついに嵐になり、傘をさすのも困難なぐらい激しい雨と風の中、レクリエーションが始まりました。この雨と湿気で気分も下がるかなと思っていたら「嵐に負けないように盛り上がりましょう」という開会の言葉と、「こんな雨だからみんなで頑張ろう」という声が聞こえてきました。そして、まさに嵐を吹き飛ばすような元気さで、本当に楽しいレクリエーションになりました。みなさんが七条中のよいところと言ってくれた「行事に全力に取り組むところ」はこの気持ちの切り替えの速さ、そして、ネガティブであればあるほど、より大きな反発力でプラスに変えていける学年の力の賜物だと感じました。

2日目はバスで東京に移動し、遊就館で人間魚雷や大砲を見学し、平和について考えました。みなさんが中学校に入学した年にミャンマーで軍事クーデターが発生し、次の年にはロシアによるウクライナ侵攻、去年はイスラエルによるガザ地区のパレスチナ人への無差別攻撃、怒りや暴力では物事は解決しないことを改めて確認する、大切な時間を過ごしました。

平和学習の後は東京ディズニーランドへ移動し、エレクトリカルパレードや花火を見て歩いてホテルに戻るという平和のありがたさをしみじみと感じました。

3日目の都内班別研修では、世界の大都市東京の京都にはないよさを発見できたのではないのでしょうか。

この修学旅行の全力で取り組む姿は、「七中祭 合唱の部」での美しいハーモニー、「体育の部」での団結力でも見ることができました。

みなさんのもう一つ印象に残っていることは学習確認プログラムに取り組む姿勢です。行事や部活動と同じように全力で取り組んだ結果、いつも京都市内で上位の結果が返ってきて、私も自慢ができました。

さて、これから次のステージに進み、将来、社会に出ていかれるみなさんに可能性についてお話します。本校の教育目標は「未来をよりよく生きるために ひとりひとりの可能性を引き出す教育」です。みなさんが廊下に貼ってくれている「私の夢」を実現できる見込みを可能性と言います。可能性を実現するために、まず、夢をかなえた姿を想像しモチベーションを高め、第3者の目で自分を見て分析し、見通しを立てて粘り強く取り組むことできっと叶えることができるはずです。みなさんが夢を叶えた姿を見ることを楽しみにしています。

ご来賓のみなさま、本日はお忙しいところご参列いただきましてありがとうございます。七条中学校の子どもたちにとってこの地域は人生のスタート地点になるところです。地域の一員としてしっかりと貢献できるように温かく見守っていただければありがたいです。

保護者の皆さま、本日はお子たちのご卒業、誠におめでとうございます。今日の卒業の機会に、お子さんが生まれてこられた時のことを思い出してください。一人では生きていけない大切な赤ち

ゃんがいてくれるだけで嬉しかったのではないのでしょうか。中学生になり生意気なことを言うこともあるでしょうが、お子さんが何物にも代えがたいものであるという気持ちはきっとお子さんにも伝わるはずです。これからの成長を長い目で楽しみましょう。

さて、卒業生のみなさん、今日、七条中学校を巣立っていかれるみなさんに、2年生の時に歌ってくれた「奏」の一節を贈ります。

「君が大人になっていくその時間が、降り積もる間に僕も変わっていく。例えばそこにこんな歌があれば、ぼくらはどこにいたって繋がっていける。」

みなさんの繋がりがいつまでも続きますように。

令和6年3月15日 京都市立七条中学校 校長 高橋佳久